

大学生の特徴とニーズをふまえた^{ミニストリー}伝道

—日米の場合—

森 田 美千代

I 序論

II 調査

III 調査の結果

1. アメリカの大学生の場合
2. 日本の大学生の場合

IV 大学生の特徴とニーズ

1. アメリカの大学生の場合
2. 日本の大学生の場合

V 結論——大学生の特徴とニーズをふまえた^{ミニストリー}伝道——

1. アメリカの大学生の場合
2. 日本の大学生の場合

I 序論

本論文のねらいは、ヤング・アダルト、特に、大学生の特徴とニーズを理解し、そして、それを、彼等への^{ミニストリー}伝道に役立てようとするにある。

このねらいのために、筆者は、質問紙法を用いた。日本語による質問紙も英語による質問紙も、ともに、筆者による。質問の内容は、FowlerのStages of Faithのpp.311-312から借用した四つの質問を除いて、すべて、筆者が考えたものである。質問は30からなり、そのトピックは、大学教育、^{インティマシー}親密さ、職業、教会生活、価値である。この5つのトピックを選んだ理由は、これらが、大学生の生活に最も関連をもつ重要なトピックである、と筆者がみなしたからである。大学教育についての質問は1から7まで、親密さについては

8から15まで、職業については16から21まで、教会生活については22から26まで、価値についての質問は27から30まで、である。

アメリカの大学生の場合、1989年9月28日から10月3日にかけて、A大学の図書館、学生会館、寮において、55部の質問紙が、筆者および寮の学生ディレクターによって、配布された。そのうち、46部の回答用紙が、同年10月2日および3日に、筆者と寮の学生ディレクターによって、回収された。

日本の大学生の場合、1989年12月19日から22日にかけて、キリスト教大学であるB大学の「キリスト教学」のクラスにおいて、希望する学生のみ51名に対して、担当者に配布してもらった。同数の回答用紙が、クラスのなかで、回収された。

II 調査

配布された質問紙の内容は、本論文の最後に添付されている通りである。⁽¹⁾

ただし、質問のなかで、日本の学生に対しては、国籍は問わなかった。その理由は、在日韓国人朝鮮人の学生がもし含まれているとすれば、国籍が明らかになることによって、彼等が就職したり結婚したりする時に、不利にならないとも限らないことを、未然に防ぐためである。

III 調査の結果

アメリカの大学生の場合、回答者は、男子21名、女子25名の、計46名である。回答者の年齢は、17歳から22歳までである。彼等の国籍は、アメリカ34名、イタリア4名、イギリス1名、ドイツ1名、スペイン1名、ソ連邦1名、西インド諸島の国に国籍をもつ者1名、および、国籍を記入しなかった者3名、である。46名中、33名がクリスチャン、4名がユダヤ教徒、9名は無宗教である。33名のクリスチャンのうち、14名がカトリックで、19名がプロテスタントである。

日本の大学生の場合、回答者は、男子23名、女子27名、性を記入しなかった者1名の、計51名である。回答者の年齢は、18歳から23歳までである。国籍は、IIにおいて述べたごとく、質問しなかった。51名中、12名が仏教徒、12名が無宗教である。27名は、宗教名については、無回答である。回答者のうち、クリスチャンは、1名もいない。

日米の大学生についての調査の結果は、以下の通りである。⁽²⁾ただし、記述による回答を要する項目の結果は、大部分、後述することになるので、下の欄には、記入しないことにする。さらに、一つ選ぶべきところを二つ選んだり、二つ選ぶべきところを一つしか選ばなかったりしている回答者がいるため、総数がアメリカの大学生46名、日本の大学生51名に、必ずしも、一致していない項目があるが、傾向性を把握するためには、支障はない、と筆者はみなしたことを、ことわっておきたい。

| | アメリカの 大学生の場合 | 日本 の 大学生の場合 |
|--|-----------------|-------------------|
| 1. 大学生になる前にはどの州(県)に住んでいたか。 | 省略 | 省略 |
| 2. どのようにして大学を選んだか。 (一つ選択) | | |
| 主として自分で決めた | 29 | 46 |
| 主として親に相談した | 9 | 3 |
| 主として高校の先生に相談した | 1 | 0 |
| 主として牧師に相談した | 0 | 0 |
| 主として友達に相談した | 1 | 2 |
| その他 | 6 | 1 |
| 3. なぜ大学に行きたいと思ったか。 (一つ選択) | | |
| 自分を知的に伸ばしたかった | 23 | 28 |
| 友達をつくりたかった | 0 | 4 |
| クラブ活動をしたかった | 0 | 1 |
| 大学を卒業することにより、中卒 や高卒の人より、経済的に豊かにな りたかった | 17 | 13 |
| ただ働きたくなかった | 1 | 4 |
| その他 | 5 | 2 |
| 4. 大学生活で、次のどれが重要か。 (二つ選択) | | |

| | アメリカの 大学生の場合 | 日本 の 大学生の場合 |
|--|-----------------|-------------------|
| 自分を知的に伸ばす | 37 | 28 |
| 友達をつくる | 14 | 36 |
| クラブ活動をする | 3 | 5 |
| 自分自身の価値や信念を形成し、 それを強化する | 24 | 25 |
| その他 | 2 | 2 |
| 5. 問題がある時には、誰に相談するか。 (一つ選択) | | |
| 自分自身で解決する | 13 | 22 |
| 親に助けを求める | 7 | 4 |
| 大学教授に相談する | 0 | 0 |
| 大学のチャプレンに助けを求める | 0 | 0 |
| 牧師に相談する | 0 | 0 |
| カウンセラーの所に行く | 1 | 0 |
| 友達に話す | 25 | 24 |
| その他 | 2 | 2 |
| 6. どのようにして週末を過ごすか。 (二つ選択) | | |
| 勉強する | 23 | 7 |
| ダンスやパーティや映画に行く | 33 | 11 |
| アルバイトをする | 7 | 24 |
| スポーツをする | 9 | 5 |
| 旅行に出かける | 0 | 1 |
| 睡眠をとる | 5 | 22 |
| その他 | 3 | 17 |
| 7. 授業料を含めて、大学生活に必要な 費用は、誰が出しているか。 (二つ選択) | | |
| 自分自身 | 20 | 24 |
| 親 | 37 | 50 |

| | アメリカの 大学生の場合 | 日本 の 大学生の場合 |
|--|-----------------|-------------------|
| 奨学金 | 12 | 7 |
| ローン | 5 | 0 |
| 教会 | 0 | 0 |
| その他 | 5 | 0 |
| 8. 忙しい時に、もし友達が不意に訪ねて、重大な問題を話すとしたら、どうするか。 (一つ選択) | | |
| 時間をさくことを断わる | 0 | 3 |
| 時間をさいて話す | 45 | 40 |
| その他 | 0 | 7 |
| 無回答 | 1 | 1 |
| 9. はじめて性的関係をもったのは、何歳の時か。 | | |
| 年齢 | 後述 | 後述 |
| まだ性的関係をもったことがない | 8 | 20 |
| 10. 性的関係をもつ時に、避妊具を用いるか。 | | |
| はい | 41 | 16 |
| いいえ | 3 | 3 |
| 無回答 | 2 | 32 |
| 11. その理由は何か。 | 後述 | 後述 |
| 12. 性的関係をもつ人と結婚することが大事か。 | | |
| はい | 10 | 9 |
| いいえ | 35 | 23 |
| 無回答 | 1 | 19 |
| 13. その理由は何か。 | 後述 | 後述 |
| 14. 婚約や結婚の前に、性的関係をもつことに賛成するか。 | | |

| | アメリカの 大学生の場合 | 日本 の 大学生の場合 |
|--|-----------------|-------------------|
| はい | 41 | 19 |
| いいえ | 4 | 10 |
| どちらともいえない ⁽³⁾ | 0 | 1 |
| 無回答 | 1 | 21 |
| 15. その理由は何か。 | 後述 | 後述 |
| 16. 就職する時、次のどれが重要か。 (一つ選択) | | |
| サラリー | 17 | 9 |
| 自分の専門をいかす | 3 | 23 |
| できるだけ多くの自由な時間がある | 1 | 11 |
| 他の人々や、社会の進歩に、役立つ | 16 | 5 |
| 神の召命に従う | 0 | 0 |
| その他 | 20 | 6 |
| 17. どのようにして、パート・タイムやフル・タイムの仕事に関する情報を得ているか。 (一つ選択) | | |
| 大学の職業相談室 | 17 | 9 |
| 大学外の職業紹介所 | 7 | 12 |
| 教会を通じて | 0 | 0 |
| その他 | 19 | 24 |
| 無回答 | 3 | 6 |
| 18. 仕事をさがす時、誰に相談したいか。 (一つ選択) | | |
| 誰にも相談したくない | 4 | 5 |
| 親 | 20 | 24 |
| 教授 | 9 | 3 |
| カウンセラー | 3 | 1 |

| | アメリカの 大学生の場合 | 日本 の 大学生の場合 |
|---|-----------------|-------------------|
| 牧師 | 0 | 0 |
| 友達 | 11 | 16 |
| 神に祈る | 1 | 0 |
| その他 | 2 | 1 |
| 無回答 | 0 | 2 |
| 19. なじみのない遠隔地に、興味深い仕事があり、もしその仕事に就けるとしたら、そこに行くか。 | | |
| はい | 34 | 35 |
| いいえ | 11 | 16 |
| 無回答 | 1 | 0 |
| 20. 仕事をどんどん変えていくことに賛成するか。 | | |
| はい | 10 | 15 |
| いいえ | 30 | 34 |
| 状況による ⁽⁴⁾ | 4 | 0 |
| 無回答 | 2 | 2 |
| 21. その理由は何か。 | 後述 | 後述 |
| 22. 聖日礼拝に出席しているか。 | | |
| はい | 12 | 1 |
| いいえ | 34 | 48 |
| 無回答 | 0 | 2 |
| 23. その理由は何か。 | 後述 | 後述 |
| 24. 教会では、どのような活動に参加しているか。 | | |
| ヤング・アダルト・クラス（大学生会とか青年会など） | 5 | 1 |
| 聖書研究会 | 2 | 0 |
| 社会問題研究会 | 6 | 0 |
| その他 | 3 | 7 |

| | アメリカの 大学生の場合 | 日本 の 大学生の場合 |
|--|-----------------|-------------------|
| 聖日礼拝には出席しているが、どんな活動にも参加していない | 7 | 1 |
| 無回答 | 23 | 42 |
| 25. 教会では、どのような奉仕をしているか。 | | |
| 教会学校教師 | 3 | 0 |
| 献金の祈り | 3 | 0 |
| 新来会者を案内する | 4 | 1 |
| 礼拝中の託児コーナーを受け持つ | 2 | 0 |
| その他 | 3 | 7 |
| 聖日礼拝には出席しているが、奉仕していない | 9 | 1 |
| 無回答 | 22 | 42 |
| 26. 大学生のために、どのような活動やイベントが、教会で計画されることを望むか。 | 後述 | 後述 |
| 下記の四つの質問は、Fowlerの <u>Stages of Faith</u> のpp.311-312からのものである。 ⁽⁵⁾ | | |
| 27. 人生の導きとなる、最も重要な信念や価値や態度は、何か。 | 後述 | 後述 |
| 28. 価値や信念を支えてくれるものとして、どのようなつながりやグループが、最も重要か。 | 後述 | 後述 |
| 29. 人生に失望や絶望を感じる時、支えたり希望をあらたにもたせてくれるものは、何か。 | 後述 | 後述 |
| 30. 将来のことを考える時、心配な気持ちや不安な気持ちにさせるものは何か。 | 後述 | 後述 |

1. アメリカの大学生の場合

調査の結果として、次のことがいえよう。

A大学の学生は、一般的にいて、近くの州から来ているといえる。大学を選ぶ際、29名は、自分で決めている。牧師に相談した者は、1名もいない。大学に進学したい理由に関しては、23名が、自分を知的に伸ばしたかったと答えている。大学生活で重要なことは、37名が、自分を知的に伸ばしたいと答えている。問題がある時には、25名が、友達に話すと回答し、大学教授や大学のチャプレンや牧師に相談する者は、1名もいない。週末をどのように過ごすかについては、多くの学生がダンスやパーティや映画に行く(33名)とともに、勉強もしている(23名)ことがわかる。大学生活に必要な費用は、主として、親(37名)と自分自身(20名)によって、出されている。教会は、1名の学生にも、財政的に援助をしていない。

忙しい時に、もし友達が不意に訪ねて、重大な問題を話すとしたら、どうするか、という質問に対しては、無回答の1名を除いて、全回答者が、時間をさいて話すか答えている。46名中、38名の学生が、主として16歳から18歳の間にはじめて、性的関係をもっている。8名の学生は、まだ、性的関係をもったことがないと答えている。性的関係をもつ時(過去、現在、将来を含む)に、41名が、避妊具を用いると回答し、3名のみが、用いないと回答している。避妊具を用いる理由としては、妊娠を防ぐため、AIDSのような病気を防ぐため、自分達の行為に責任をとるため、経済的にまだ自立していないからというようなことが、あげられる。多くの学生(35名)が、性的関係をもつ(過去、現在、将来を含む)人と結婚する必要は必ずしもない、と考えている。その理由は、結婚と性とは必ずしも同じでないと考えているからである。婚約や結婚の前に、性的関係をもつことに、46名中、41名が、賛成している。その理由は、婚約や結婚の前に、相手を、できるだけよく知りたいと考えるからである。

就職する時、サラリー(17名)、他の人々や社会の進歩に役立つこと(16名)が、重要であると答えている。神の召命に従うと答えた者は、1名もいない。どのようにして、パート・タイムやフル・タイムの仕事に関する情報を得ているかについては、大学の職業相談室を利用している学生(17名)が、最も多い。教会を通じて得ている学生は、1名もいない。仕事をさがす時に、20名の学生が、親に相談したいと答えている。牧師に相談したいと答えた学

生は、1名もいない。なじみのない遠隔地に、興味深い仕事があり、その仕事に就けるとしたら、そこに行くかどうかという質問に対して、非常に多くの学生（34名）が、行くだろうと回答している。仕事を頻繁に変えることに對して、30名が、賛成しないと答えている。その理由として、彼等は、その仕事に安定性を求めており、また、生産的な職業人となるためには、どうしてもある一定期間、同じ仕事をするのがよいと考えるからである。

聖日礼拝には、46名中、12名のみが出席し、34名は出席していない。その理由として、「私は神を信じていない、私は制度となった宗教を信じていない、私は宗教的人間ではない」などとあげている。聖日礼拝に出席している12名も、そのうちの7名は教会のどんな活動にも参加していないし、9名は教会で奉仕をしていない。従って、大学生のために、どのような活動やイベントが教会で計画されることを望むかという質問に対して、3名が社会がかかえている問題に取り組むことや、2名がディスカッション・グループに、関心をもっているので、それに関連することを計画して欲しいと回答しているのみである。

自分自身の人生の導きとなる、最も重要な信念や価値や態度についての質問に対する学生の回答を要約すれば、自分自身であること、正直であること、家族や友達と親密なかかわりをもつこと、となろう。少数ではあるが、困難な時に自分を助けてくれて、そして、人生の正しい方向を選択することを可能にしてくれた神を信じること、というのもあった。上述の価値や信念を支えてくれるものとして、ボーイ・フレンドやガール・フレンドを含む友達（32名）と家族（29名）が最も重要である、と答えている。人生に失望や絶望を感じる時、友達（16名）や家族（14名）や信仰（10名）が、自分を支えてくれたりあるいは希望をあらたにもたせてくれると考えている。

将来のことを考える時、何が、最も心配な気持ちや不安な気持ちにさせるかという質問に対して、回答を要約すれば、次のようになる。自分自身のこととしては、卒業後に就職できるかどうか、お金、友情、結婚、家族を養っていけるかどうか、死というような問題が、心配な気持ちにさせると答えている。さらに、社会の問題としては、貧しいホームレスの人々、暴力や犯罪の増加をあげている。政治の問題としては、国民の生活に対する政府のコントロール、不安定性、画一性、ファシズム、軍備拡張、核兵器、戦争と平和をあげている。環境の問題として、汚染、動物権を、また、健康の問題とし

て、がん、AIDS、薬害をあげている。

2. 日本の大学生の場合

日本の大学生に対する調査の結果としては、次のことがいえよう。

B大学の学生は、一般的にいて、近くの県から来ているといえる。大学選択に関して、51名中、46名が、自分で決めている。高校の先生や牧師に相談した者は、1名もいない。大学進学の原因に関しては、28名が、自分を知的に伸ばしたかったと答えている。大学生活で重要なことは、36名が友達をつくることであると答えている。問題がある時には、51名中、24名が、友達に話すし回答し、大学教授や大学のチャプレンや牧師やカウンセラーに相談する者は、1名もいない。週末をどのように過ごすかについては、24名が、アルバイトをすると回答している。大学生活に必要な費用は、主として、親(50名)と自分自身(24名)によって、出されている。

忙しい時に、もし友達が不意に訪ねて、重大な問題を話すとしたら、どうするか、という質問に対しては、51名中、40名が、時間を割いて話すし回答している。性的関係に関する質問に対して、51名中、23名が、無回答である。20名は、まだ性的関係をもったことがないと答え、8名が、主として17歳から20歳の間に、はじめて、性的関係をもったと答えている。性的関係をもつ時(過去、現在、将来を含む)に、避妊具を用いるかどうかの質問に対して、32名は無回答である。16名が避妊具を用いると回答し、3名が用いないと回答している。避妊具を用いる理由、あるいは、用いない理由としては、34名が無回答である。7名が妊娠や病気を防ぐためと答え、6名がまだ経済的に自立していないからと答えている。51名中、23名が、性的関係をもつ(過去、現在、将来を含む)人と結婚する必要は必ずしもない、と考えている。19名は、無回答である。その理由として、30名は無回答であるが、9名の者が、結婚と性とは必ずしも同じではないからと答えている。婚約や結婚の前に、性的関係をもつことに関して、51名中、21名は無回答である。19名が、性的関係をもつことに、賛成している。10名は、性的関係をもつことに、反対している。その理由を、33名が、無回答で提出しているのだから、賛成するにせよ反対するにせよ、筆者は、明確な理由を、学生の回答のなかに見出すことができない。

就職する時、自分の専門をいかすこと(23名)が重要である、と答えてい

る。神の召命に従うと答えた者は、1名もいない。パート・タイムやフル・タイムの仕事に関する情報は、大学外の職業紹介所（12名）を通して得ている者が最も多く、教会を通じて得ている者は、1名もいない。仕事をさがす時、相談したい人としては、親（24名）である。牧師に相談したい、神に祈ると答えた学生は、1名もいない。なじみのない遠隔地に、興味深い仕事があり、その仕事に就けるとしたら、そこに行くかどうかという質問に対して、35名が、行くだらうと回答している。仕事を頻繁に変えることに対して、34名が、賛成しないと答えている。15名は、賛成すると答えている。その理由としては、15名は無回答である。賛成しない理由としては、その仕事を続けること（6名）とその仕事において安定性を得ること（3名）が大事であると考えており、賛成する理由としては、その新しい仕事をこなす十分な能力があると感じ、かつ、その機会が実際にあれば、仕事を変えていってもよいと考えている。

聖日礼拝には、51名中、1名のみが出席し、48名は出席していない。その理由として、20名は無回答であるが、「私はクリスチャンでない、私はキリスト教には興味・関心がない、私は日曜日には他の用事で忙しい」などをあげている。次の三つの質問、すなわち、教会ではどのような活動に参加しているか、教会ではどのような奉仕をしているか、大学生のためにどのような活動やイベントが教会で計画されることを望むか、に対しては、順番に、42名、42名、45名というほとんどの学生が、無回答である。わずかに2名の学生が、クリスマス・パーティに興味・関心があると回答している。

自分自身の人生の導きとなる、最も重要な信念や価値や態度についての質問に対して、34名もの学生が無回答であるが、回答された内容を要約すれば、自分自身と他人に対して誠実であること、自分自身に対して自信をもつこと、すべてのことに最善を尽くすこととなろう。上述の価値や信念を支えてくれるものとしては、35名もの学生が無回答であるが、ボーイ・フレンドやガール・フレンドを含む友達（7名）、家族（3名）、クラブ活動（2名）などが重要であると答えている。人生に失望や絶望を感じる時、自分を支えてくれたりあるいは希望をあらたにもたせてくれるものとして、37名の学生は無回答であるが、8名が友達、3名が家族、2名が自分自身と回答している。

将来のことを考える時、何が、最も心配な気持ちや不安な気持ちにさせるかという質問に対して、41名は無回答である。2名が環境問題、2名が戦争、

2名が就職、1名が友情を、指摘している。

IV 大学生の特徴とニーズ

本論文は、日米の大学生の特徴とニーズの違いを浮き彫りにして、そして、日米の大学生への^{ミニストリー}伝道の方法の違いを強調することが、ねらいではない。本論文のねらいは、序論において述べたごとく、大学生の特徴とニーズを理解し、そして、それを彼等への^{ミニストリー}伝道に役立てようとするところにある。そのために、これまで述べてきた、アメリカの大学生と日本の大学生の調査の結果をふまえて、ここで、日米の大学生の特徴とニーズを明らかにしておきたいと思う。

1. アメリカの大学生の場合

第一に、アメリカの大学生でも、一般的にいて、教会には、興味・関心をもっていないといえる。つまり、このことは、教会は彼等の人生や生活のなかの一要素を占めていないし、また、彼等は教会を頼りにしてはいないということである。そのことは、次のようなことからいえる。すなわち、大学を選択する時、牧師に相談した学生は1名もいないし、問題がある時の相談相手として、1名の学生も牧師を選んでいないし、教会は1名の学生に対してさえ財政的援助をしていないし、就職する時、神の召命に従うと答えた学生は1名もいないし、仕事に関する情報を、教会を通じて得ている学生は、1名もいないし、仕事をさがす時に相談したい相手として、1名の学生も、牧師を選んでいないことから、いえる。さらに、次のようなことからいえる。すなわち、46名中、わずかに12名の学生のみが聖日礼拝に出席していること、しかも、そのほとんどが、教会の活動に参加もしていなければ、教会の奉仕もしていないこと、さらに、大学生のためにどのような活動やイベントが教会で計画されることを望むかに対して、5名の学生のみが回答していることからいえる。

第二に、上述のこととは対照的に、アメリカの大学生は、両親や友達を頼りにしているといえる。換言すれば、彼等は、両親や友達との関係を必要としているといえる。筆者は、彼等が、友達の存在を必要としているであろうことは、予想していたが、彼等が両親との関係をこれほどまでに必要としているということは予想していなかった。アメリカの大学生が、両親や友達を

頼りにしているという特徴とニーズは、調査結果の次のことからいえる。つまり、大学を選ぶ時両親に相談していること、問題がある時、その相談相手として、友達を選んでいて、大学生生活に必要な費用を、両親も、援助していること、忙しい時に友達が訪ねて重大な問題を話すとしても、46名中、45名は、時間を割いて話すだろうと回答していること、仕事をさがす時に相談したい相手として、両親を選んでいて、人生の導きとなる最も重要な信念や価値や態度として、そして、それらを支えてくれる重要な関係やグループとして、さらに、人生に失望や絶望を感じる時、その人を支えてくれたり希望をあらたにもたせてくれるものとして、家族と友達をあげていることから、いえるのである。

第三に、アメリカの大学生は、性的関係をもつことは結婚することを意味するとは、必ずしも、考えていないといえる。それは、調査結果の次のことからいえる。すなわち、46名中、35名の学生が、性的関係をもつ人と結婚することが重要であるとは必ずしも思っていないこと、そして、婚約や結婚の前に性的関係をもつことに、41名が賛成していることからいえるのである。

第四に、アメリカの大学生は、自分自身のことのみならず、社会や政治や環境や健康などの問題にも、強い関心をもっているといえる。そのことは、将来のことを考える時、何が心配な気持ちや不安な気持ちにさせるかという質問に対する彼等の回答からいえるのである。

2. 日本の大学生の場合

日本の大学生の特徴とニーズを述べる前に、次のことを明確にしておかなければならない。それは、日本の大学生の場合、その多くの学生が、5つのトピックのうち、すなわち、大学教育、^{インティマシー}親密さ、職業、教会生活、価値のうち、自分の考えを表さなければならぬ、^{インティマシー}親密さ、教会生活、価値の、3つのトピックの質問項目に対して、答えていないという事実である。このことは、日本の大学生の場合、アメリカの大学生の場合に比べて、その特徴とニーズを把握するのに、困難さが伴った、といわねばならない。

日本の大学生の多くの者が、^{インティマシー}親密さ、特に性のトピックに答えなかった理由は、日本人はまだ性の事柄をオープンにすることを躊躇しているからではないかということや、性の事柄を質問されることはプライバシーに対する侵害であると学生が感じたからかもしれないということが、考えられる。教会

生活のトピックに、日本の多くの大学生が答えなかった理由は、彼等は、キリスト教のような宗教には、まったくといていいほど、興味・関心がないからではないかと考えられる。さらに、日本の大学生のほとんどが、価値のトピックに答えなかった理由のひとつとしては、幼稚園教育から大学教育までの日本における教育のありかたの結果によるのではないかと考えられる。換言すれば、日本における教育においては、入学試験に合格することが、最優先されているので、幼稚園生から大学生にいたるまで、彼等には、価値の問題について考えを深めるような時間など十分にないからである。彼等は、価値についての考えを深めることに時間を使うよりも、できるだけ多くのことを暗記することに、時間を使わなければならないからである。

以上のことを明確にしたうえで、以下において、日本の大学生の特徴とニーズを、述べることにしたい。

第一に、日本の大学生は、一般的にいて、キリスト教や教会とは、まったく無縁のところ、生きているといえる。この特徴は、次の三つの事実から明瞭である。第一の事実は、キリスト教大学に在学している51名の回答者のうち、1名も、クリスチャンがいないということが、そのことを端的に示している。第二の事実は、大学を選ぶ時1名も牧師に相談していないこと、問題がある時相談する相手として1名も大学のチャプレンや牧師を選んでいないこと、教会は1名の学生に対してさえ財政的援助をしていないこと、就職する時神の召命に従うと答えた学生は1名もないこと、仕事に関する情報を1名も教会を通じて得ていないこと、仕事をさがす時1名も牧師に相談したり神に祈ろうとは思っていないこと、聖日礼拝に出席している学生は1名のみであること、である。第三の事実は、日本人の大学生の場合、そのほとんどが、教会生活のトピックに対して答えていないことである。

第二に、日本の大学生は、性の問題について、明確な考えをもっていないといえる。それは、次の二つの事実によって、明瞭である。第一の事実は、日本の学生は、幼稚園生から大学生にいたるまで、家庭においても学校においても教会においても、きちんとした性教育を受けていないといえることである。第二の事実は、ほとんどの学生が、性のトピックに対して答えていないことである。

第三に、日本の大学生は、さらに、価値の問題についても、はっきりした考えをもっていないといえる。この特徴は、次の二つの事実によって、明瞭

である。第一の事実は、前述したように、日本の学生は、幼稚園生から大学生にいたるまで、価値の問題について考えを深めるような時間はないといえることである。第二の事実は、ほとんどの学生が、価値のトピックに対して答えていないことである。

第四に、日本の大学生の興味と関心は限定されているといえる。つまり、日本の大学生は、アメリカの大学生がもっている、社会や政治や環境や健康などの問題に広がるどころの幅広い興味や関心をもっていないといえる。このことは、次の事実から、明らかである。すなわち、将来のことを考える時、何が、心配な気持ちや不安な気持ちにさせるかという質問に対して、非常に多くの学生が答えていないという事実によって、明らかである。

V 結論——大学生の特徴とニーズをふまえた伝道^{ミニストリー}——

1. アメリカの大学生の場合

第一に、基本的にはキリスト教社会であるアメリカにおいてさえ、教会は大学生の生活のなかの一要素にもなっていないし、また、彼等は教会を頼りにしてはいないということを、教会は、事実として、受けとめなければならない。従って、牧師や教会員は、彼等が教会に来るのを待っているのではなくて、牧師や教会員のほうから、彼等のところへ出かけていくことを、まず最初に、しなければならないと思う。そこから、すべてのことの第一歩も、すなわち、彼等が教会に興味・関心をもつのも、はじまるといえよう。

第二に、アメリカの大学生は、両親の必要性を強く感じているという事実に基づいて、教会は、両親への教育を通じて、大学生を伝道することができると思う。

第三に、たとえ大学生自身は必要性を感じていなくても、教会は、性の問題や結婚の問題に関して、間接的に両親への教育を通じて彼等を導くなり、あるいは、直接的に彼等を教育するなりしなければならないと思う。

第四に、アメリカの大学生は、自分自身のことのみならず、社会や政治や環境や健康などの問題について、既に、興味・関心をもっているのも、牧師は、説教のなかで、福音をそれらの問題とかかわらせながら語ることができる。教会は、また、それらの問題について、専門家を招き、講演会をおこなうこともできる。さらに、教会は、それらの問題について、大学生同士でディスカッションをすることができるような計画をたてることもできる。このよ

うにして、アメリカの大学生がもっているひとつのよき特徴、すなわち、社会や政治や環境や健康などの問題についての興味・関心や知識を、さらに、彼等が深めていけるように、教会はその一助となることができる。

第五に、アメリカの大学生は、週末を、ダンスやパーティーや映画に行っ
て過ごすことが多いので、牧師や教会員は、教会や教会員の家庭で、上述の活動を主催し、そして、彼等と友達になったり、あるいは、彼等の必要に応じて、カウンセラーやアドバイザーになったり、あるいは、大学生同士で交わりを深めさせることもできる。例えば、上述の活動のなかの映画の上映のトピックとしては、将来に関して、彼等が心配したり不安に感じていること
のなかから、選ぶことができよう。

2. 日本の大学生の場合

日本の大学生への^{キリスト}伝道を考える前に、次のことを明確にしておかなければ
ならない。それは、この調査において1名もクリスチャンがいないことから
もわかるように、基本的なところで非キリスト教社会である日本において、
その大学生に伝道することは、アメリカの大学生への伝道と比較にならぬほ
ど、困難なことであるといわなければならない。

このような状況において、教会は、日本の大学生に対して、何をすることが
でき、また、どのように効果的にすることができるだろうか。日本におい
ては、学校がもつ影響力は、概して、強力であるといえる。従って、日本の
学生に伝道する際、教会にとって、学校と協力することが、効果的であると
いえる。日本においては、公立学校においてはある特定の宗教を伝道するこ
とは禁じられているので、教会は、私立のキリスト教大学と協力すること
になる。教会は、どのようにキリスト教大学と協力して、日本の大学生に伝道
することができるだろうか。

第一に、日本の大学生は、アメリカの大学生と比較できないほど、キリス
ト教や教会とはまったく無縁のところできているという事実を、教会は、
真剣に、受けとめなければならない。従って、アメリカの場合に増して、日
本の場合も、彼等が教会に来るのを待つのではなくて、教会のほうから、彼
等のところへ、具体的には、キリスト教大学のキャンパスへ出かけていくこ
とを、何よりもまず最初にしなければならぬと思う。そこから、アメリカ
の場合と同様に、すべてのことの第一歩、すなわち、彼等が教会に興味・関

心をもつのも、はじまるといえよう。

第二に、教会は、キャンパスで、キリスト教大学のチャプレンや教師と協力して、講演会やシンポジウムやディスカッションや映画上映などを、計画することができる。そのトピックとしては、日本の大学生は、性の問題について明確な考えをもっていない、また、価値の問題についてもはっきりした考えをもっていない、さらに、アメリカの大学生がもっているところの社会や政治や環境や健康などの問題に広がる幅広い興味や関心をもっていない、という特徴をふまえて、それらの弱い点を網羅するものであるのがふさわしいと思う。そうすることで、上述のトピックについて、日本の大学生が、少しでも興味・関心を広げ、さらに、自分の考えを明確にすることができる一助になることができればと思う。

第三に、教会は、キャンパスで、キリスト教大学のチャプレンや教師と協力して、バイブル・スタディを計画することができよう。そうすることで、参加者のなかから、教会に行ってみたいと思う学生も出てくる可能性がある。

第四に、日本のキリスト教大学では、週に何回か、そして、1回につき15分間ないし30分間、チャペル・サービスがおこなわれていると思うので、もしその大学の近隣の教会牧師が、そのチャペル・サービスで、聖書、キリスト教、そして、教会について、大学生に話す機会が与えられるならば、大学生への^{ミニストリー}伝道は、さらに効果があるものとなろう。

第五に、日本におけるキリスト教大学では、通常年に一度ないし二度、修養会がおこなわれるので、もし教会の牧師が、その修養会に、講師やグループのディスカッション・リーダーや交わりの時間のリーダーのようないろいろな役割で、参加する機会が与えられるならば、これも、効果的な、大学生への^{ミニストリー}伝道となるだろう。

注

- (1) 日本語の質問紙は、本文中の、調査の結果が、それに相当するので、本論文の最後には、英語の質問紙のみを、添付する。
- (2) 数字は、パーセントではなく、人数を表す。
- (3) 筆者が、「どちらともいえない」という選択肢をつくったわけではない。これは、回答者によるものである。
- (4) 筆者が、「状況による」という選択肢をつくったわけではない。これは、回答者によるものである。

- (5) Fowler, James W., Stages of Faith: The Psychology of Human Development and the Quest for Meaning. (San Francisco:Harper & Row, 1981), pp.311-312.

The following questions are for understanding characteristics and needs of young adults, especially college/university students, and for the implications for ministry to them. kindly answer the questions. Your cooperation is greatly appreciated.

Male_____ Female_____

Age_____

Nationality_____

Religion_____ Denomination_____

1. In which state had you lived before you came to A University?

2. How did you choose your college/university? Choose one.
_____Mainly I made my decision by myself.
_____I consulted mainly with my parents.
_____I consulted mainly with my high school teachers.
_____I consulted mainly with my pastor.
_____I consulted mainly with my friends.
_____Other_____
3. Why did you want to attend college/university? Choose one.
_____I wanted to develop intellectually.
_____I wanted to make friends.
_____I wanted to participate in extra-curricula activities.
_____I wanted to receive my education in order to eventually earn more money than I would without a college/university education.
_____I just didn't want to work.
_____Other_____
4. What aspects of college/university life are most important to you?
Choose two.
_____To develop intellectually
_____To make friends

- _____ To participate in extra-curricula activities
_____ To form and strengthen my own values and beliefs
_____ Other _____
5. When you have problems, whom do you consult with? Choose one.
- _____ I solve the problems by myself.
_____ I ask help from parents.
_____ I consult with the college/university professors.
_____ I ask help from the college/university chaplain.
_____ I consult with a pastor.
_____ I go to a counselor.
_____ I talk with my friend.
_____ Other _____
6. How do you spend your time on the weekends? Choose two.
- _____ Studying
_____ Going to a dance, a party or a movie
_____ Working at a part-time job
_____ Participating in sports
_____ Taking a trip
_____ Sleeping
_____ Other _____
7. Who is financially responsible for your college/university life, including tuition? Choose two.
- _____ Myself
_____ Parents
_____ Scholarship
_____ Loan
_____ Church
_____ Other _____
8. What would you do, if your friend unexpectedly visited you and wanted to discuss a serious problem with you when you were busy? Choose one.
- _____ I would decline to share time with him/her.
_____ I would take time to talk with him/her.
_____ Other _____
9. How old were you, when you had a sexual relationship for the first time?
Age _____

- _____ I have not yet had a sexual relationship.
10. Do you use a contraceptive device, when you have a sexual relationship?
_____ Yes
_____ No
11. Why or why not?
12. Do you feel it is important that you marry the person with whom you have a sexual relationship?
_____ Yes
_____ No
13. Why or why not?
14. Are you in favor of having a sexual relationship before your engagement or marriage?
_____ Yes
_____ No
15. Why or why not?
16. When you get a job, what do you think is most important to you? Choose one.
_____ Salary
_____ Making good use of my major
_____ Having as much free time as possible
_____ Being helpful to others and social improvement
_____ Following God's calling
_____ Other _____
17. How do you receive information related to part-time or full-time jobs? Choose one.
_____ Career counseling office on campus
_____ Employment agency
_____ Through church
_____ Other _____
18. Whom do you want to consult with, when you look for a job? Choose one.
_____ Nobody
_____ Parents
_____ Professors
_____ Counselor
_____ Pastor
_____ Friend

- _____ I pray to God.
_____ Other _____
19. If you received an interesting job offer in an unfamiliar and distant place, would you accept it? (For example, from New Jersey to California or Texas)
_____ Yes
_____ No
20. Do you agree with changing job frequently?
_____ Yes
_____ No
21. Why or why not?
22. Do you attend Sunday worship?
_____ Yes
_____ No
23. Why or why not?
24. What kind of activities do you participate in, in church?
_____ Young adult class
_____ Bible study group
_____ Social concern
_____ Other _____
_____ Although I attend Sunday worship, I don't participate in any activity.
25. What kind of services do you have in church?
_____ Sunday school teaching
_____ Usher
_____ Greeting
_____ Nursing
_____ Other _____
_____ Although I attend Sunday worship, I don't serve the church at present.
26. What kind of activities or events do you want to be planned in the church for university/college students?

The following four questions are from Fowler's questions in Stages of Faith from pp. 311-312.

27. Can you describe the beliefs and values or attitudes that are most important in guiding your own life?

28. What relationships or groups are most important as support for your values and beliefs?
29. When life seems most discouraging and hopeless, what holds you or renews your hope?
30. When you think about the future, what makes you feel most anxious or uneasy (for yourself and those you love; for society or institutions; for the world)?

(1991. 11. 12)